

ワールド・カフェで 短編小説を読む:

読書活性化に資する 英語多読指導法

鶴見大学 深谷素子

deepvalley@jcom.home.ne.jp

日本英文学会
第88回大会

2016年
5月28日
京都大学
吉田キャンパス

大学生の読書離れの現状

- 毎日新聞の2016年版読書世論調査

小中高と上がるごとに月間読書冊数低下、不読率上昇

- 全国大学生生活協同組合連合会 (2015,2016)による調査

1日の読書時間が0分の大学生：40.9%(2015)→**45.2%(2016)**

- 平山(2008, 2014)

不読率の上昇：33.6%(2006) → **40.1%(2012)**

読書の目的が「自己の錬磨形成」から「**言語技能の向上**」へ変化。

「**ゆとり時間**」読書、「**すきま時間**」読書が共に減少。

→ **大学生は本を読まなくなっている。**

- 人文系学部の改組、廃止、人文系教養の軽視。

すそ野を広げなくていいのか。

対策＝英語多読授業！

①英語科目は必修。

②多読授業の目的＝たくさん本を読むこと

③英語力向上への動機付け → 読書への動機付け

さらに。。

④GRを大量に読む多読授業＋多様な読書行動を促すアクティビティ＝読書への意識変化、意欲向上

Research question

英語多読授業に
ワールド・カフェを導入
し短編小説を読んだ結果、
学習者の**読書**にどのよう
な変化が生じるか。

調査対象者

- 神奈川県内私立大学法学部 1 年生 55 名
（男子 = 39 名、女子 = 16 名）
- 選択必修の英語授業、通年 28 回 × 90 分
- 受講者の英語レベル = 中 ~ 中・上級レベル
- 読書好きが多い

ワールド・カフェの手順

第1ラウンド（ホーム）

テーマについて探求

第2ラウンド（他テーブルに自由移動）

アイデアを他花受粉

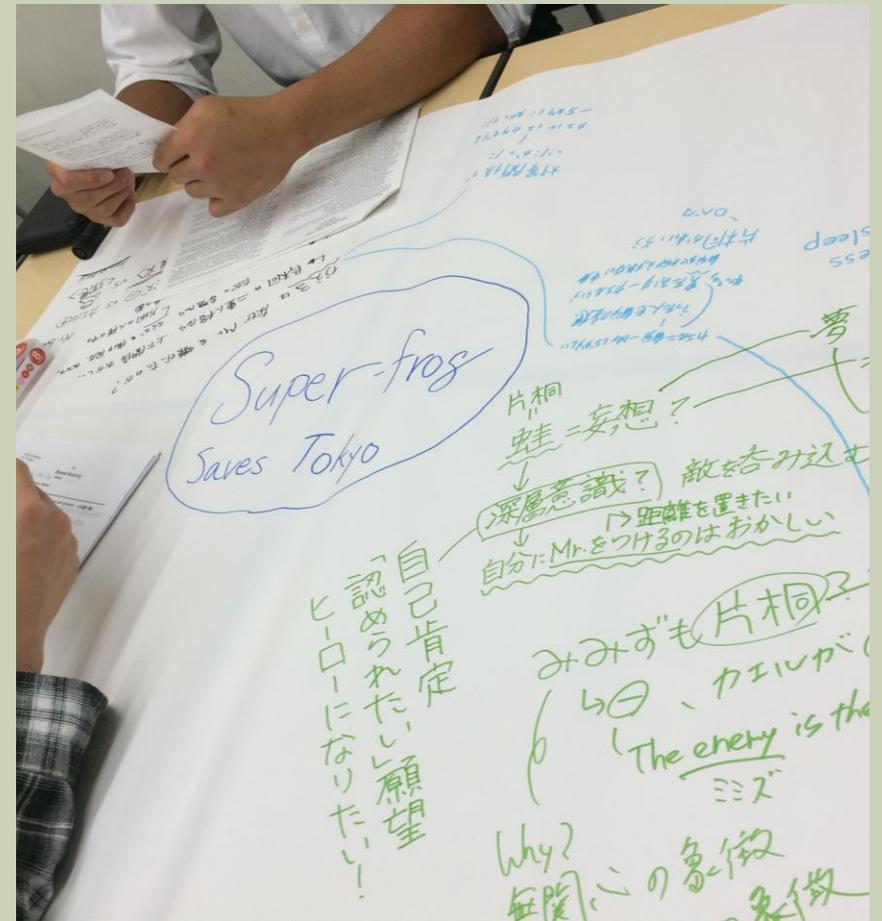
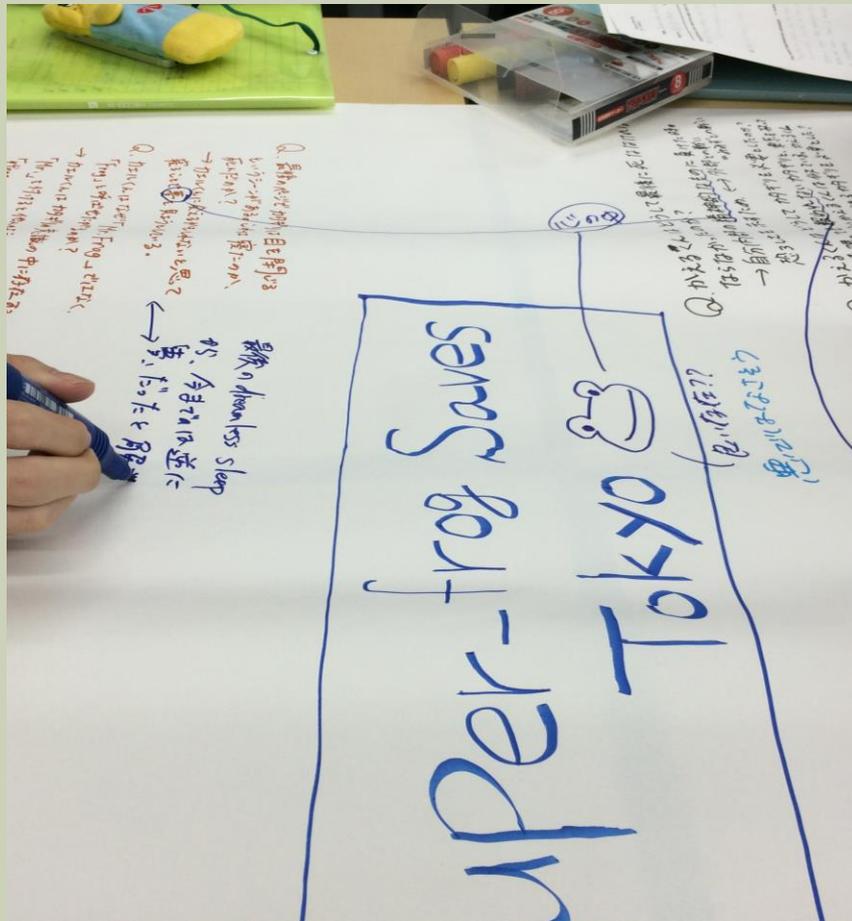
第3ラウンド（他テーブルに自由移動）

アイデアを他花受粉

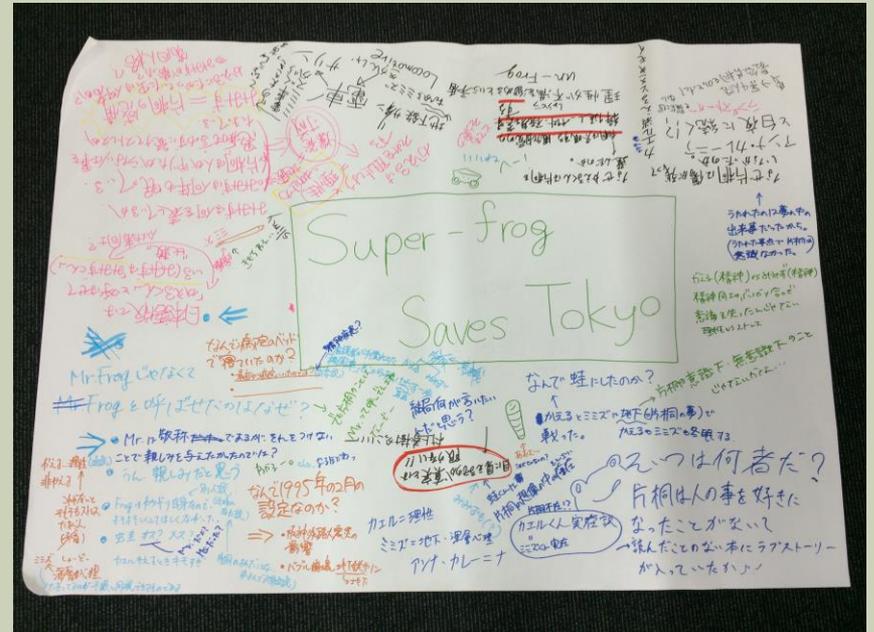
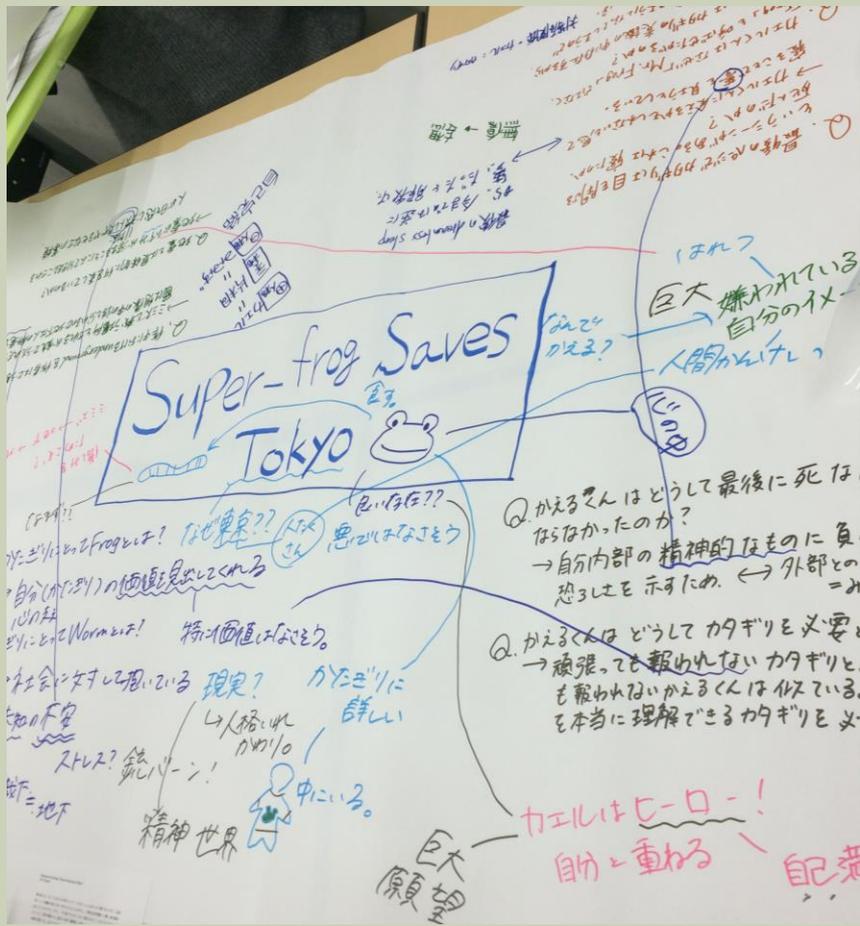
第4ラウンド（ホームに戻る）

気づき・発見を共有・統合
革新的アイデアの生成

少しずつアイデアが書き込まれ、



アイディアの集積となる。



2015年度多読授業のLESSONプラン

| First Semester | | Second Semester | |
|----------------|-----------------------------------|-----------------|--|
| 1 | プレースメントテスト、アンケート | 1 | Book Talk② + 2週間で10冊読むHW |
| 2 | 多読ガイダンス、レベル判定告知 | 2 | 前期末レポート返却、書き直し |
| 3 | 読書 + 2週間で10冊読むHW | 3 | 読書 |
| 4 | 読書 + 個別インタビュー | 4 | “Super-Frog Saves Tokyo”精読のHW |
| 5 | 読書 + 個別インタビュー | 5 | “Super-Frog Saves Tokyo”でWorld Cafe |
| 6 | 読み聞かせ(<i>The Giving Tree</i>) | 6 | “Super-Frog Saves Tokyo”解説、再読 |
| 7 | Book Talk① | 7 | 読書 + Pop作成のHW |
| 8 | 読書 + Free writing | 8 | WPM測定 + 読書 |
| 9 | <i>Catcher in the Rye</i> で翻訳演習 | 9 | 読書 + Popを使ってBook Talk③ |
| 10 | <i>Catcher in the Rye</i> 解説 + 読書 | 10 | WPM測定 + 読書 |
| 11 | 期末レポートのライティング指導 | 11 | “True War Story”を用いてPrediction + “On the Rainy River”精読のHW |
| 12 | Shared Reading Discussion | 12 | “On the Rainy River”でWorld Café + 自宅で再読するHW |
| 13 | Shared Readingのミニ・プレゼン | 13 | 期末レポートのライティング指導 |
| 14 | 語数中間報告、夏休みの読書計画 | 14 | プログレステスト、アンケート |

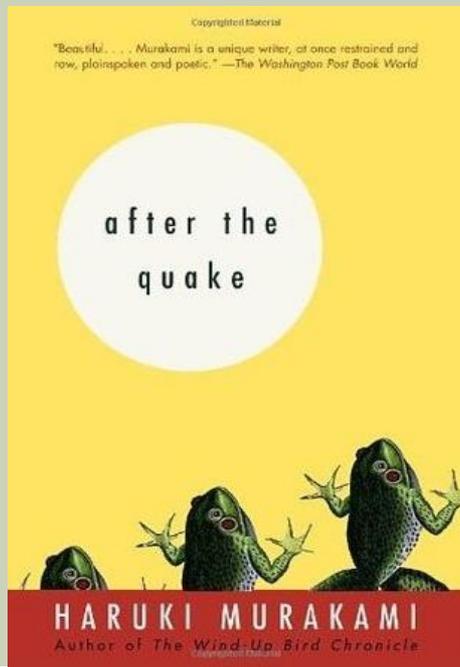
使用した短編小説

■ ワールド・カフェ#1

“Super-Frog Saves Tokyo”

村上春樹著(2000)

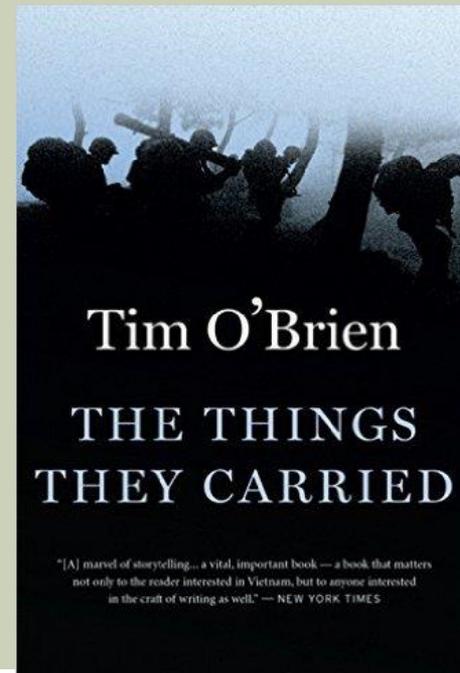
Jay Rubin訳(2002)



■ ワールド・カフェ#2

“On the Rainy River”

Tim O’ Brien著(1990)



調査の手順、方法

1. 作品を配布し、辞書を使用して自宅で精読する課題を課す。その際に、ワークシートを配布し、ワールド・カフェで使用する材料（メンバーへの質問、最も印象に残った箇所の紹介、作品評価など）を用意させる。
 2. 教室にて、ワールド・カフェ(WC)前アンケート実施
 3. ワールド・カフェ実施（約60分）
 4. （宿題として）ワークシートにワールド・カフェ後の作品評価を記入させる。
 5. 次の授業時間内（あるいは自宅）で、作品を再読する。
 6. ワールド・カフェ(WC)後アンケート実施
-
- ◆多読授業前後に英語読書についてアンケート（23問）実施
 - ◆多読授業後に、多読授業への評価アンケート（36問）実施

表1:設問内容

| | |
|----|---|
| 1 | 速く読めた。 |
| 2 | “Super-Frog …”の英語は難しい。 |
| 3 | “Super-Frog …”の内容は難しい。 |
| 4 | “Super-Frog …”の英語を理解できた。 |
| 5 | “Super-Frog …”の内容を理解できた。 |
| 6 | “Super-Frog …”を読んでいるとき、作者のことを考えた。 |
| 7 | “Super-Frog …”を読んでいるとき、作品の主題について考えた。 |
| 8 | “Super-Frog …”を深く読んだ。 |
| 9 | “Super-Frog …”の内容が、自分の物の見方に影響を与えた。 |
| 10 | “Super-Frog …”の内容について、今後も考え続けるだろう。 |
| 11 | “Super-Frog …”を読んで、作者の考え方が好き、あるいは嫌いだと思った。 |
| 12 | “Super-Frog …”の内容に興味を持てた。 |
| 13 | “Super-Frog …”を読んで、読書への興味が増した。 |
| 14 | “Super-Frog …”を読んで、学ぶことがあった。 |
| 15 | “Super-Frog …”を読んで、もっと英語の本を読みたいと思った。 |
| 16 | 目的をもって、“Super-Frog …”を読んだ。 |
| 17 | “Super-Frog …”を読む目的は、graded readersを読む目的と異なる。 |
| 18 | “Super-Frog …”を読む際、graded readersとは違う読み方をした。 |
| 19 | “Super-Frog …”を読んで、graded readersとの違いを感じた。 |
| 20 | “Super-Frog …”は、graded readersよりおもしろかった。 |

ワールド
カフェ
前後に実
施した
アンケート
ト設問

| No | 表2 設問内容 | Super-Frog (N52) | | Rainy River (N55) | |
|----|------------------------------------|------------------|------|-------------------|------|
| | | WC前 | WC後 | WC前 | WC後 |
| 1 | 速く読めた。 | 2.29 | 3.31 | 1.82 | 3.14 |
| 2 | “…”の英語は難しい。 | 3.60 | 3.44 | 4.14 | 4.00 |
| 3 | “…”の内容は難しい。 | 3.71 | 3.87 | 3.88 | 3.94 |
| 4 | “…”の英語を理解できた。 | 3.25 | 3.46 | 2.90 | 3.38 |
| 5 | “…”の内容を理解できた。 | 2.98 | 3.65 | 3.06 | 3.84 |
| 6 | “…”を読んでいるとき、作者のことを考えた。 | 3.00 | 3.25 | 3.38 | 3.74 |
| 7 | “…”を読んでいるとき、作品の主題について考えた。 | 3.75 | 3.73 | 3.50 | 3.94 |
| 8 | “…”を深く読んだ。 | 3.31 | 3.81 | 2.96 | 3.84 |
| 9 | “…”の内容が、自分の物の見方に影響を与えた。 | 2.50 | 2.98 | 2.80 | 3.34 |
| 10 | “…”の内容について、今後も考え続けるだろう。 | 2.65 | 2.94 | 2.80 | 3.08 |
| 11 | “…”を読んで、作者の考え方が好き/嫌いだと思った。 | 3.27 | 3.42 | 3.34 | 3.30 |
| 12 | “…”の内容に興味を持てた。 | 3.50 | 3.65 | 3.44 | 3.72 |
| 13 | “…”を読んで、読書への興味が増した。 | 3.08 | 3.25 | 2.96 | 3.18 |
| 14 | “…”を読んで、学ぶことがあった。 | 3.25 | 3.58 | 3.42 | 3.88 |
| 15 | “…”を読んで、もっと英語の本を読みたいと思った。 | 3.02 | 3.33 | 2.86 | 3.16 |
| 16 | 目的をもって、“…”を読んだ。 | 2.96 | 3.33 | 2.82 | 3.38 |
| 17 | “…”を読む目的は、graded readersを読む目的と異なる。 | 3.15 | 3.27 | 3.12 | 3.24 |
| 18 | “…”を読む際、graded readersとは違う読み方をした。 | 3.25 | 3.17 | 3.10 | 3.06 |
| 19 | “…”を読んで、graded readersとの違いを感じた。 | 3.44 | 3.54 | 3.52 | 3.56 |
| 20 | “…”は、graded readersよりおもしろかった。 | 3.35 | 3.33 | 3.04 | 3.26 |

| No | 表3 設問内容 | Super-Frog (N52) | | Rainy River (N55) | |
|----|------------------------------------|------------------|------|-------------------|------|
| | | WC前 | WC後 | WC前 | WC後 |
| 1 | 速く読めた。 | 2.29 | 3.31 | 1.82 | 3.14 |
| 2 | “…”の英語は難しい。 | 3.60 | 3.44 | 4.14 | 4.00 |
| 3 | “…”の内容は難しい。 | 3.71 | 3.87 | 3.88 | 3.94 |
| 4 | “…”の英語を理解できた。 | 3.25 | 3.46 | 2.90 | 3.38 |
| 5 | “…”の内容を理解できた。 | 2.98 | 3.65 | 3.06 | 3.84 |
| 6 | “…”を読んでいるとき、作者のことを考えた。 | 3.00 | 3.25 | 3.38 | 3.74 |
| 7 | “…”を読んでいるとき、作品の主題について考えた。 | 3.75 | 3.73 | 3.50 | 3.94 |
| 8 | “…”を深く読んだ。 | 3.31 | 3.81 | 2.96 | 3.84 |
| 9 | “…”の内容が、自分の物の見方に影響を与えた。 | 2.50 | 2.98 | 2.80 | 3.34 |
| 10 | “…”の内容について、今後も考え続けるだろう。 | 2.65 | 2.94 | 2.80 | 3.08 |
| 11 | “…”を読んで、作者の考え方が好き/嫌いだと思った。 | 3.27 | 3.42 | 3.34 | 3.30 |
| 12 | “…”の内容に興味を持てた。 | 3.50 | 3.65 | 3.44 | 3.72 |
| 13 | “…”を読んで、読書への興味が増した。 | 3.08 | 3.25 | 2.96 | 3.18 |
| 14 | “…”を読んで、学ぶことがあった。 | 3.25 | 3.58 | 3.42 | 3.88 |
| 15 | “…”を読んで、もっと英語の本を読みたいと思った。 | 3.02 | 3.33 | 2.86 | 3.16 |
| 16 | 目的をもって、“…”を読んだ。 | 2.96 | 3.33 | 2.82 | 3.38 |
| 17 | “…”を読む目的は、graded readersを読む目的と異なる。 | 3.15 | 3.27 | 3.12 | 3.24 |
| 18 | “…”を読む際、graded readersとは違う読み方をした。 | 3.25 | 3.17 | 3.10 | 3.06 |
| 19 | “…”を読んで、graded readersとの違いを感じた。 | 3.44 | 3.54 | 3.52 | 3.56 |
| 20 | “…”は、graded readersよりおもしろかった。 | 3.35 | 3.33 | 3.04 | 3.26 |

| No | 表4 前後の有意差があった設問 ("Super-Frog Saves Tokyo") | WC 前 | WC 後 | <i>t</i> | <i>SD</i> | <i>r</i> |
|----|--|---------|---------|----------|-----------|----------|
| 1 | 速く読めた。 | 2.29 | 3.31 | 6.41** | 1.15 | .67 |
| 5 | 内容を理解できた。 | 2.98 | 3.65 | 4.29** | 1.13 | .52 |
| 8 | 深く読んだ。 | 3.31 | 3.81 | 3.54** | 1.02 | .44 |
| 9 | 内容が自分の物の見方に影響を与えた。 | 2.50 | 2.98 | 3.34** | 1.04 | .42 |
| 10 | 内容について今後も考え続けるだろう。 | 2.65 | 2.94 | 2.52** | 0.83 | .33 |
| 14 | 読んで学ぶことがあった。 | 3.25 | 3.58 | 2.83** | 0.83 | .37 |
| 15 | 読んでもっと英語の本を読みたいと思った。 | 3.02 | 3.33 | 3.16** | 0.70 | .41 |
| 16 | 目的をもって読んだ。 | 2.96 | 3.33 | 2.13** | 1.24 | .29 |

$n = 52, df = 51, **p < .01$

| No | 表5 前後の有意差があった設問 （“On the Rainy River”） | WC 前 | WC 後 | <i>t</i> | <i>SD</i> | <i>r</i> |
|----|--|---------|---------|----------|-----------|----------|
| 1 | 速く読めた。 | 1.82 | 3.14 | 9.98** | 0.94 | .82 |
| 4 | 英語を理解できた。 | 2.90 | 3.38 | 3.65** | 0.93 | .46 |
| 5 | 内容を理解できた。 | 3.06 | 3.84 | 5.78** | 0.95 | .64 |
| 6 | 読んでいるとき作者のことを考えた。 | 3.38 | 3.74 | 2.20* | 1.16 | .30 |
| 7 | 読んでいるとき作品の主題について考えた。 | 3.50 | 3.94 | 3.52** | 0.88 | .45 |
| 8 | 深く読んだ。 | 2.96 | 3.84 | 5.97** | 1.04 | .65 |
| 9 | 内容が自分の物の見方に影響を与えた。 | 2.80 | 3.34 | 3.92** | 0.97 | .49 |
| 10 | 内容について今後とも考え続けるだろう。 | 2.80 | 3.08 | 2.14* | 0.93 | .29 |
| 12 | 内容に興味を持てた。 | 3.44 | 3.72 | 2.09* | 0.95 | .29 |
| 14 | 読んで学ぶことがあった。 | 3.42 | 3.88 | 3.77** | 0.86 | .48 |
| 15 | 読んでもっと英語の本を読みたいと思った。 | 2.86 | 3.16 | 2.39* | 0.89 | .32 |
| 16 | 目的をもって読んだ。 | 2.82 | 3.38 | 3.26** | 1.22 | .42 |

$n = 50, df = 49, *p < .05, **p < .01$

| No | 表6 前後の有意差があった設問 ("On the Rainy River") | WC 前 | WC 後 | <i>t</i> | <i>SD</i> | <i>r</i> |
|----|--|---------|---------|----------|-----------|----------|
| 1 | 速く読めた。 | 1.82 | 3.14 | 9.98** | 0.94 | .82 |
| 4 | 英語を理解できた。 | 2.90 | 3.38 | 3.65** | 0.93 | .46 |
| 5 | 内容を理解できた。 | 3.06 | 3.84 | 5.78** | 0.95 | .64 |
| 6 | 読んでいるとき作者のことを考えた。 | 3.38 | 3.74 | 2.20* | 1.16 | .30 |
| 7 | 読んでいるとき作品の主題について考えた。 | 3.50 | 3.94 | 3.52** | 0.88 | .45 |
| 8 | 深く読んだ。 | 2.96 | 3.84 | 5.97** | 1.04 | .65 |
| 9 | 内容が自分の物の見方に影響を与えた。 | 2.80 | 3.34 | 3.92** | 0.97 | .49 |
| 10 | 内容について今後も考え続けるだろう。 | 2.80 | 3.08 | 2.14* | 0.93 | .29 |
| 12 | 内容に興味を持てた。 | 3.44 | 3.72 | 2.09* | 0.95 | .29 |
| 14 | 読んで学ぶことがあった。 | 3.42 | 3.88 | 3.77** | 0.86 | .48 |
| 15 | 読んでもっと英語の本を読みたいと思った。 | 2.86 | 3.16 | 2.39* | 0.89 | .32 |
| 16 | 目的をもって読んだ。 | 2.82 | 3.38 | 3.26** | 1.22 | .42 |

$n = 50, df = 49, *p < .05, **p < .01$

記述式回答①“Super-Frog”

- 自分が「こうだ！」と思って解釈していたことを、他のテーブルに行き別の意見を聞いたときに、「確かに」や「すごい」と思っている内にこの作品にどんどん引き込まれていった。同じ部分に興味を持ったとしても、感じ取り方は十人十色でとても面白かった。
- 最初1人で読んでいた時は、正直内容が訳分からなかったのですが、周りの人と話すことで自分の考えもハッキリしてきて、且つ色々な解釈を聞いてこの本に対する理解と興味がより一層深まり、読書の楽しさを改めて感じました。

- みんなの意見をきけるのはいいけれど、どっちにしろ話し合いは難しいし、あの形はまどろっこしい気もする。
- 意外と新しくて斬新な意見は出にくいんだと感じた。みんな同じ考えの延長で考えていた。

記述式回答②“Rainy River”

- 最初は戦争の体験談、実話と思って淡々と読んだけれど、World Café をしてまず、この本が事実なのかや人による着眼点、考え方の違いを知る事で**本への理解は一人よりも高まると感じた。**
- 最初何を思ったか、どこに注意をひかれたのかは人それぞれ違うため、多方面から“On the Rainy River”を見ることができた。「正義と悪とは」とか「ヒーローってなに」とか**つかみづらくて答えもでないことを考えて、作者の考えを話し合っ**て1人で読んだときはさらっと流してた様々な問題に気づいて考えることができた。

- 初読の感想が分かりづらいな、意味を全てとれている自信はおろか、そもそも概意すら正しくとれているのかに不安を抱く程であったから、正直周りがこういう話を強く引っ張ってくれるのではないかとシェアリーディングに**抱いた期待は一度目より大きかった。**それだけに、周りの反応がかんばしいものでなく、初読のいわば誤った先入観かもしれないものが何一つ変わらなかった状況というのは残念であった。他力本願かもしれないが、**何も効果がなかった**という印象だ。

文学作品を読んだ印象コメント

- (SF)やはり、単語がむずかしかかったし、文章自体も難しかった。内容を深く理解するためには学習者向けに書き直された本を読むのも重要だと思うが、生の英語に触れるのも重要であると思う。
- (SF)このレベルのリトールドされていないものを読むには自分はまだまだだなと思った。しかし逆に、難しかったからこそ理解しようと頭をつかい、World Cafeをしたことでより本を読むことを楽しめた。
- (SF)「ここ簡略化したのかな？」っていうPGR2ぐらいの本を読んでいてときどきある印象を受けなかった。この作品を簡略化されても分からなかったと思うし、文学作品を読むには自分は足りないことだらけだなあと実感した。
- (SF)抽象的表現が多いほか、形容詞の多様がされており、あったことが淡々と書き連ねてあるGraded Readerとは異なっていた。
- (RR)やはりgraded readersよりも面白いと思った。読後感をきちんと得られる作品を読んでいた方が読書の意味が感じられて良いなと思う。読後感を得るためにも、主題を考えるためにも、英文を読む力が不可欠なので、単語の語彙力や、長文をサラサラ読む力をはやくつけたいと思う。今回は単語や慣用表現に結構手こずりました。
- (RR)まだまだ自分の実力ではこういった作品を読むのは難しいのだと思いしられました。現実をつきつけられて、英語学習への意欲が増しました。

| 表7：以下のアクティビティは有益だったか。 (N=55) | 平均値/5 |
|--|-------|
| 1. “Super-Frog Saves Tokyo”を使ってワールドカフェ | 4.36 |
| 2. “On the Rainy River”でワールドカフェ | 4.22 |
| 3. 春学期のShared Reading | 4.18 |
| 4. “Super-Frog Saves Tokyo”の精読 | 4.13 |
| 5. お勧め本を紹介するBook Talk | 4.05 |
| 6. WPMを測る | 3.98 |
| 7. “On the Rainy River”の精読 | 3.93 |
| 8. Book report(春学期末) | 3.91 |
| 9. Free writing | 3.82 |
| 10. “How to Tell a True War Story”を用いてprediction | 3.76 |
| 11. <i>Catcher in the Rye</i> で翻訳演習 | 3.75 |
| 12. 2週間で10冊の本(GR)を読む | 3.75 |
| 13. お互いのpredictionを他のクラスメートとシェア | 3.65 |
| 14. Popを使ってBook Talk | 3.44 |
| 15. 読み聞かせ <i>The Giving Tree</i> | 3.37 |
| 16. Popを作る | 3.26 |

多読
授業内
アクティ
ビティに
対する
受講者の
反応①

| 表8：忘れられない本になったか。 (N=55) | | 平均値/5 |
|----------------------------|------------------------------------|-------|
| 1. | “Super-Frog Saves Tokyo” | 4.11 |
| 1. | Book report(春学期末)に用いた本 | 4.11 |
| 3. | Popを作るのに使った本 | 3.83 |
| 4. | 春学期のShared Readingで読んだ本 | 3.75 |
| 5. | “On the Rainy River” | 3.65 |
| 6. | 初めて読んだpaperback(簡略版でない本) | 3.52 |
| 7. | “How to Tell a True War Story” | 3.48 |
| 8. | お勧め本を紹介するBook Talkで使用した本 | 3.43 |
| 9. | 夏休みに読んだ本 | 3.25 |
| 10. | 読み聞かせで用いた <i>The Giving Tree</i> | 3.07 |
| 11. | 翻訳演習で用いた <i>Catcher in the Rye</i> | 3.05 |
| 12. | 2週間で10冊読む活動で読んだ本(GR) | 2.47 |

多読
授業内
アクティ
ビティに
対する
受講者の
反応②

短編小説の精読/ワールド・カフェ への評価と読書量の相関

| 表9 | 読書量 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | Mean | SD |
|-----------------|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|------------|------------|
| 読書量(語数) | --- | .02 | .17 | -.07 | .19 | .02 | .00 | 478,370.91 | 212,878.29 |
| ①SFのワールド・カフェは有益 | --- | --- | .63** | .67** | .53** | .43** | .30* | 4.36 | 0.80 |
| ②SFの精読は有益 | | | --- | | | | | 4.13 | 0.82 |
| ③RRのワールド・カフェは有益 | | | | --- | | | | 3.92 | 0.81 |
| ④RRの精読は有益 | | | | | --- | | | 3.93 | 0.77 |
| ⑤SFは忘れられない本 | | | | | | --- | .40** | 4.11 | 0.90 |
| ⑥RRは忘れられない本 | | | | | | | --- | 3.65 | 0.99 |

相関なし

$n = 55, df = 53, *p < .05, **p < .01$

読書量との相関が見られた設問① (多読授業への評価アンケートより)

| 表10 | 読書量 | 12) | 13) | 15) | 24) | Mean | SD |
|------------------------------|-----|------|-------|-------|-------|------------|------------|
| 読書量(語数) | --- | .29* | .43** | .31* | .32* | 478,370.91 | 212,878.29 |
| 12)読解力の向上 (を感じる) | | --- | .42** | .25 | .33* | 3.47 | 0.98 |
| 13)英文を読んで 考える力の向上 | | | --- | .43** | .62** | 3.47 | 0.92 |
| 15)英語での読書 への興味の向上 | | | | --- | .54** | 4.27 | 0.49 |
| 24)アクティビティ による読書意欲の 向上 | | | | | --- | 4.15 | 0.83 |

$n = 55, df = 53, *p < .05, **p < .01$

読書量との相関が見られた設問② (事前事後アンケート比較より)

| 表11 | 読書量 (語数) | Q1 6 | Q17 | Q22 | Mean | SD |
|-----------------------------|-------------|---------|------|-------|------------|------------|
| 読書量(語数) | --- | .31* | .28* | .36** | 478,370.91 | 212,878.29 |
| Q16(事前事後の差) 速読より精読が好き | | --- | .25 | .26 | 0.38 | 1.18 |
| Q17(事前事後の差) 人生観・世界観が変わった | | | --- | .71** | 0.64 | 1.32 |
| Q22(事前事後の差) 影響を受けた英語の本ある | | | | --- | 1.20 | 1.13 |

$n = 55, df = 53, *p < .05, **p < .01$

Findings

RQ：<ワールド・カフェで短編小説>により、学習者の読書はどのように変化するか。

1. 読書の方法が変化した。＝「速く読む」「深く読む」「目的をもって読む」
2. 読書による学び、気づきが促された。＝「物の見方に影響あり」「今後も考え続ける」「学びがあった」
3. 読書への意欲が向上した。
4. ワールド・カフェ、及び短編小説の精読を有益だと感じた。
5. ワールド・カフェで読んだ短編小説が「忘れられない本」になった。
6. しかし、それが読書量にはつながらなかった。
7. 「英文を読んで考える」「精読する」ことを高く評価する学習者の態度と、その学習者の読書量との影響関係あり。

CONCLUSION

英語多読授業に
ワールド・カフェで
短編小説を読む活動を
導入することは、大学
生の読書離れ防止に
一定の効果有り

References 1

- Brown, J., Isaacs, D., & the World Café Community. (2005) *The world café: Shaping our futures through conversations that matter*. San Francisco, CA: Bennett-Koehler.
- 独立行政法人国立青少年教育振興機構 (2013) 「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究報告書」 Retrieved October 28, 2015, from http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/72/
- Elley, W. B., & Mangubhai, F. (1983). The impact of reading on second language learning. *Reading Research Quarterly*, 19. 53-67.
- Fukaya, M. (2015). The use of a literary text in an extensive reading programme: Reading Murakami's "Super-frog saves Tokyo" in the World Café. In M. Teranishi, Y. Saito, & K. Wales (Eds.), *Literature and language learning in the EFL classroom* (pp. 260-279). London: Palgrave Macmillan.
- 平山祐一郎 (2008) 『大学生の読書状況に関する教育心理学的考察』 東京: 財団法人野間教育研究所
- 平山祐一郎 (2014) 「大学生の読書の変化: 2006年調査と2012年調査の比較より」, *The Science of Reading*, 56(2). 55-64.

References 2

- Jacobs, G., & Gallo, P. (2002). Reading alone together: Enhancing extensive reading via student-student cooperation in second-language instruction. *Reading Online*, 5(6). Retrieved March 12, 2015, from http://www.readingonline.org/articles/art_index.asp?HREF=jacobs/index.html.
- 小林めぐみ・河内智子・深谷素子・佐藤明可・谷牧子(編著)(2010)(成蹊大学国際教育センター多読共同研究プロジェクトグループ)『多読で育む英語力プラスα』東京: 成美堂
- 毎日新聞社 (2015) 『2015年版読書世論調査: 第68回読書世論調査/第60回学校読書調査』東京: 毎日新聞社
- 毎日新聞社 (2016) 『2016年版読書世論調査: 第69回読書世論調査/第61回学校読書調査』東京: 毎日新聞社
- 望月陵 (2011) 「ワールド・カフェの活用: 交流で自分の考えを広げ、深める」国立大学法人山梨大学教育人間科学部附属中学校 Retrieved October 28, 2015, from http://www.wgr.yamanashi.ac.jp/modules/research/index.php?content_id=121
- Nishizawa, H., Yoshioka, T., & Fukada, M. (2010) The impact of a 4-year extensive reading program. In A. M. Stoke(Ed.), *JALT2009 Conference Proceedings*, Tokyo: JALT, 632-640.
- 竹内理・水本篤(編著) (2012) 『外国語教育研究ハンドブック: 研究手法のより良い理解のために』東京: 松柏社

References 3

- 全国大学生生活協同組合連合会 (2015) 「第50回学生生活実態調査の概要報告」
Retrieved October 28, 2015, from <http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>
- 全国大学生生活協同組合連合会 (2016) 「第51回学生生活実態調査の概要報告」
Retrieved May 22, 2016, from <http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>

使用テキスト

- Murakami, H. (2002). Super-frog saves Tokyo. In *After the Quake: Stories* (J. Rubin, Trans., pp. 111-140). New York: Alfred A. Knopf. (Original work published 2000)
- O'Brien, T. (1990). On the Rainy River. In *The Things They Carried* (pp.37-58). Boston: Mariner Books.

Acknowledgements

- 本調査は、学術研究助成基金助成金 基盤研究C「複合的多読授業の研究：フィンランド式教育法に基づくアクティビティの開発」(課題番号2452067)、及び「能動型学習を目指す英語多読指導に役立つアクティビティの開発と選定」(課題番号 16K02836)の助成を受けている。
- 本調査に用いたSPSS分析については、金武マリア氏に多大なご協力をいただいた。ここに謝意を表す。